

目指す学校像	子ども・保護者・地域の期待に応え、みんなに愛される学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 「シン・GIGAスクール構想」で実現させる教育DXの充実と12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成 2 児童数急増・学級増への対応を見据えた教育 3 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実 4 自信と誇りをもった教職員の育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ・日常的にICTを活用する学級は、エヴァンジェリストを中心に広まった。 <課題> ・全教員が日常的にICTを授業で活用する状況にはまだ至っていない。また「主体的・対話的で深い学び」を実現するため基礎的な学力を底上げする必要がある。	・「シン・GIGAスクール構想」で実現させる教育DXの充実	① エヴァンジェリストを全学年に配置し、学校のICT推進力とし、さいたま市スマートスクールプロジェクト(SSSP)の着実な実施を実現する。 ② 児童用デジタル端末を活用した国語力向上の研修推進を通して、端末使用比率の向上を実現する。 ③ プログラミング教育「さいたまモデル」で新たな「探究的な学び」の実践を実現する。	・学校評価：教育のデジタル化に係る項目のAB評価を80%以上にする。 ・具体的方策①～③を実施することで、学びの自律と個別最適化を充実させる。	・学校評価：教育のデジタル化に係る項目のAB評価は保護者80%・児童93%・教職員85%となった。 ・具体的方策①～③については、エヴァンジェリストが学校のICT推進力となり、SSSPを実施した。児童用デジタル端末の仕様については徐々に向上している。また、プログラミング教育については、(株)iJapanと連携して先進的な推進ができています。	A	・保護者の学校評価では、教育のデジタル化に係る項目のAB評価にまだ向上の余地があるので、次年度の課題とする。 ・改善策としては、SSSPの一層の推進、児童用デジタル端末を児童の心の状況把握に使用するスクールダッシュボードの積極的な活用と、プログラミング教育における(株)iJapanとの連携を推進していく。
1	<現状> ・学校自己評価に係る教員アンケートで、授業・学習に関連する項目の肯定的な評価の割合は91.4%となった。また、学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートで、授業・学習に関連する項目の肯定的な評価の割合は85.3%となった。 <課題> ・高学年の教科担任制については、成果と課題が明らかになったので、今年度の実施に向けて本校に適する形で実施していく。 ・学力向上活動に対しての評価は高いが、「真の学力」の育成には課題が多く、学校課題研修として取り組む。	・12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成	① 学校課題研修において「個別最適な学び」「協働的な学び」「探究的な学び」のスタイル構築を実現する。 ② 研修推進委員会が中心となり、朝の学習時間(毎日15分)や昼の学習時間(毎週木曜15分)を活用して学力向上活動を実施し、学習内容の定着を図る。 ③ 高学年における学級担任制と教科担当制のバランスを取って実施し、児童の学力向上と教員の指導力向上を両立する。	・学校評価：教育活動に係る項目のAB評価を88%以上にする。 ・具体的方策①～③を実施することで、児童の「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	・学校評価：教育活動(学習)に係る項目のAB評価は保護者92%・児童87%・教職員90%となった。 ・具体的方策①～③については、学校課題研修は試行錯誤を重ねながら、研修推進委員会が中心となって研究を重ねた。また、学力向上活動の成果が表れ、全国学力学習状況調査の結果が年々向上している。教科担任制については、5年生は一年間継続することができた。6年生については、行事や教員配置のバランスを見ながら学級担任制と併用した。	A	・学校課題研修では、教科に絞って研修する従来のスタイルから、児童にとって本当に必要な力を身に付けさせたり、教員にとってより必要となってくるものにポイントを絞ったりして、研究を行う必要性が確認できた。次年度の研修につなげていく。
2	<現状> ・施設設備の瑕疵による児童の事故について、令和4年度も発生することはない。 ・学校評価に係る児童アンケートで、「安全に気をつけて行動することができる。」と回答する肯定的な評価の割合は、94.0%となった。 <課題> ・施設設備の予算(含む学校マネジメント予算)を活用し、適切な修繕等を実施し、学校施設の環境維持に努める。	・児童数急増・学級増への対応を見据えた教育環境整備	① 市教委と連携して、来年度最大2学級増への対応を行い、令和7年度以降の方向性(特別教室の普通教室転用)を明らかにする。 ② 学校配当予算における校長マネジメントを活用(教育環境充実のため手数料費・管理消耗品費増額)した予算運用を実施する。 ③ 事務職員との予算状況確認を毎月1回以上実施し、予算の適正執行を実現する。	・学校評価：施設・設備に係る項目のAB評価を80%以上にする。 ・具体的方策①～③を実施することで、予算の適正執行と教育環境充実を実現する。	・学校評価：施設・設備に係る項目のAB評価は保護者86%・児童92%・教職員95%となった。 ・具体的方策①～③については、来年度2学級増への対応、再来年度までの見直しは立てることができた。また、学校配当予算については校長マネジメントを活用した予算運用を実施できている。	A	・来年度、再来年度までの教室の見直しは立ったが、それ以降は新規の教室が必要となってくるので、市教委と連携して対応していく。
3	<現状> ・地域・保護者の方と方向性を共有し、さらに中学校との連携も加えて第5回日光御成道チャレンジ強歩を実施することができた。 ・第5回日光御成道チャレンジ強歩の事後アンケートの結果、地域・保護者の方から、100%近い肯定的な評価を得ることができた。 <課題> ・中学校との連携について、卒業生の保護者なども検討し次年度より拡大させていく。 ・大門地区の恒久的な行事となるよう地域・保護者の方と連携してより一層の充実を図る。	・スクール・コミュニティによる連携・協働の充実	① 地域との連携(育成会行事への共催及び協力・SSN+の開催)や保護者と連携(PTAとの定期的な会合・6年保護者へのチャレンジ強歩説明会実施)し、本校独自の特色行事である第6回チャレンジ強歩を実施する。 ② 年間3回の学校運営協議会を実施し、学校運営の改善と児童の健全育成を実現する。 ③ 浦和レッズとの連携行事を実施し、児童の大門地区に対する愛着を向上させる。	・学校評価：保護者・地域との連携に係る項目のAB評価を80%以上にする。 ・具体的方策①～③を実施することで、保護者・地域が学校運営へ協力・連携する体制を向上させる。	・学校評価：保護者との連携に関する項目のAB評価は保護者90%・児童91%・教職員100%となった。 ・具体的方策①～③については、チャレンジ強歩を今年度も確実に実施することができた。また、浦和レッズとはレッズローズの植栽やホームタウン部との連携で2024シーズンに向けてのアピールなどを実施し、大門地区に対するの愛着向上を図った。	B	・学校評価において、地域との連携がはっきりと評価できる項目がないので、次年度に改善する。
4	<現状> ・全教員が人事評価に基づいた目標に向けて指導力を向上させる研修を実施することができた。 ・全教職員が業務改善の視点をもって、日常的に業務に取り組み、時間外在校等時間の削減を実現できた。 <課題> ・今年度も人事評価に基づいた目標に向けて指導力を向上させる研修体制を構築する。 ・今年度も業務改善の視点をもたせて、時間外在校等時間の一層の削減に取り組む。	・自信と誇りをもった教職員の育成	① 年度当初に組織した校務分掌を活用し、教育活動(学校行事・学年行事・学校課題研修)毎に過程・結果を評価し、校務分掌主任を称賛することで教職員に自信と誇りをもたせる。 ② 人事評価に基づいた業務の見守りを毎学期2回以上実施する。実施後、教職員にフィードバックすることで資質向上を図り、教職員を育成する。 ③ 時間外在校等時間が月45時間以上の職員との面談等とおして、児童への教育活動が充実するように業務改善の指導助言を実施する。	・具体的方策①～③を実施することで、教職員の資質向上や組織力向上を実現する。 ・時間外在校等時間を平均で月45時間・年間360時間以内にする。	・具体的方策①～③については、今年度も校務分掌を活用して充実した教育活動が実施できたことにより、教職員が自信をもって職務にあたっている。また、人事評価はたいへん良好な結果であった。時間外在校等時間は、平均すると良好であるが、個別には課題のある結果となった。	B	・個別に課題のあった時間外在校等時間について次年度に改善を図る。 ・改善策としては、次年度から日課表の一部見直しを図ること、また会議の持ち方の工夫改善を行う。

学校運営協議会による評価	実施日令和6年2月26日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	

<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業の基準を明示するとよいのではないかと。ただ、美園小が市教委の委嘱研究もあって、ICTが特別に進んでいる学校であり、緑区内の小学校の状況や小学生の発達段階から考えると、現状そこまで遅れているとは考えていない。 家庭でも積極的に児童用デジタル端末を使用させるためにも、長期休業中や週末の持ち帰りは推進していくとよい。 ICTを指導するために研修等も実施していると思うが、早期に全員を同一レベルまで引き上げることは難しい。教職員にこれ以上の負担は望まない。 探究的な活動と基礎的な学習のバランスが大切である。 授業は子でできることよりも集団でしかできないことを重視していくとよい。
<ul style="list-style-type: none"> 今後の児童数増加に対して必要な教室数を確保するため、学校運営協議会としても協力をしていく。
<ul style="list-style-type: none"> 大門小学校は、地域・保護者の目が行き届いていて、たいへん良好な状況である。 美園中学校の自転車通学生徒と大門小学校児童の通学路が重なり安全確保が難しい状況である。来年度から美園中学校が通学路を増やす予定であるので、見守りたい。
<ul style="list-style-type: none"> 優秀な学生が一人でも多く教員を目指してくれるためにも、小中学校で連携して学校・教員に対するの好感度が上がるような学校にしていきたい。 紙媒体とデジタルの良さを両立しながら、業務改善が進められるとよい。 教職員の激務を少しでも解消できるように学校運営協議会としても協力していく。

目指す学校像	子ども・保護者・地域の期待に応え、みんなに愛される学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 「真の学力」の育成を図る。 2 安全・安心な教育環境を実現する。 3 保護者・地域との連携を深める。 4 自信と誇りをもった教職員の育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○学校経営に係る学校評価(学校への信頼度・児童登校状況・いじめ対応状況・教育活動状況)のAB評価は95%となった。 ○教育活動(学習)に係る学校評価のAB評価は保護者89%となった。 ○学力向上活動の成果が表れ、全国学力学習状況調査の結果が年々向上している。(課題) ○学校評価では、いじめ防止対応に係る項目のAB評価にまだ向上の余地がある。 ○学校課題研修では、教科に絞って研修する従来のスタイルから、児童にとって本当に必要な力を身に付けさせたり、教員にとってより必要となってくるものにポイントを絞ったりして、研究を行う必要性が確認できた。	目指す学校像の実現	1 児童が主体となり、他者との協働や課題解決型学習などを通して、自ら思考する授業の推進やさいたま市スマートスクールプロジェクトの推進、一人ひとりの教育的ニーズに応じる特別支援教育の推進、校内委員会を活用した体力向上の推進等を実施し、豊かな人間性と健やかな体の育成を実現する。 2 児童会活動主体のいじめ防止対策を推進するとともに、学校全体でいじめの防止に努め、発生した際には迅速に対応し、いじめと不登校の連鎖の発生を防ぐ。また、Solalームの運営を開始やSC・SSWや関係機関との連携を図り、不登校児童への適切な対応を実施する。	1 学校評価の学校経営に係る項目について、前年度(AB評価95%)を維持向上する。 2 具体的方策1~2を期限内に実施することで、みんなに愛される学校を実現する。				
		「真の学力」の育成を図る。	1 研修推進委員会が中心となり、「児童が主体となり、他者との協働や課題解決型学習などを通して、自ら思考する授業」を推進することで、全教員が研究授業に取り組み、研究の成果と課題を発表する。 2 授業参観や各調査等の結果分析を基に、授業改善について教職員にコーチングの手法で指導する。 3 児童にとってより魅力的な教育活動になるよう教育課程のPDCAサイクルを円滑に実施する。 4 朝学習(月水木金曜20分)と昼学習(木曜20分)をだいまタイムとして、読書・GS・国語や算数の学習に取り組みさせることで、基礎学力を定着させる。	1 学校評価の教育活動に係る項目について、前年度(AB評価89%)を上回る。 2 具体的方策1~4を期限内に実施することで「真の学力」の育成を実現する。				
2	(現状) ○施設・設備に係る学校評価(教育環境状況・施設設備状況)のAB評価は保護者91%となった。 ○来年度の学級増への対応までの見通しは立てることができた。 ○学校配当予算について校長マネジメントを活用した予算運用を実施できている。(課題) ○令和8年度以降は新規教室が必要となるので、市教委と連携して対応していく。	安全・安心な教育環境を実現する。	1 市教育委員会と連携し、令和7年度の最大2学級増加に対応する。また、令和8年度以降の学級数増加についても見通しを立てる。 2 学校運営協議会で児童数増加に係る教室不足への対応を熟議し、必要に応じて市教育委員会へ要望書を上げる。 3 学校配当予算における校長マネジメントを活用した予算立案(教育環境充実のための手数料費・管理消耗品費・教科備品の増額)を実施する。 4 予算執行計画について、事務職員との予算状況確認を毎月1回以上実施し、予算の適正執行を実現する。	1 学校評価の教育環境の整備に係る項目について、前年度(AB評価91%)を維持向上する。 2 具体的方策1~4を期限内に実施することで教育環境整備を実施する。				
3	(現状) ○保護者との連携に係る学校評価(学校地域連携状況・情報発信状況)のAB評価は保護者94%となった。 ○チャレンジ強歩を昨年度も確実に実施することができた。 ○浦和レッズとはレッズローズの植栽やホームタウン部との連携で2024シーズンに向けてのアピールなどを実施し、大門地区に対しての愛着向上を図った。(課題) ○学校評価において、地域との連携がはっきりと評価できる項目がないので、今年度に改善する。	保護者・地域との連携を深める。	1 PTAの組織・規約を実態に応じた内容に改正し、持続可能な組織(通学班・学校教育振興費等)とする。 2 青少年育成大門地区会並びに地域関係諸団体・PTA並びに6年保護者と連携して、本校の特色ある行事「第7回日光御成道チャレンジ強歩」を成功させる。 3 学校運営協議会や大門小スクールサポートネットワークプラス会議に際して、児童数増加に係る諸課題を協議することで、より連携を深める。 4 浦和レッズとの連携行事を実施し、児童の地域愛を向上させる。	1 学校評価の保護者との連携に係る項目について、前年度(AB評価94%)を維持向上する。 2 学校評価の地域との連携に係る項目を新設して、AB評価90%を上回る。 3 具体的方策1~4を期限内に実施することで連携を深める。				
4	(現状) ○教職員の働き方に係る学校評価(働き方状況・働きがい状況)のAB評価は教職員86%となった。 ○校務分掌を活用して充実した教育活動が実施できたことにより、教職員が自信をもって職務にあたっている。 ○人事評価は大変良好な結果であった。(課題) ○時間外在校等時間は、平均すると良好であるが、個別には課題のある結果となった。個別に課題のあった時間外在校等時間について改善を図る。改善策としては、日課表の一部見直しを図り、会議の持ち方の工夫改善を行う。	自信と誇りをもった教職員の育成	1 日々の教育活動に対して、運営委員会や研修推進委員会等で、業務改善の視点で見直しや改善を協議する。 2 人事評価に基づいた業務の見守りを実施する。実施後、教職員にコーチングの手法でフィードバックすることにより、教職員の資質向上を図り、教職員を育成する。 3 時間外在校等時間が月45時間以上の職員面談等をとおして、児童への教育活動が充実するように業務改善の指導助言を実施する。 4 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を教職員に説明し理解させ、人事評価面談や職員会議や学校課題研修の時間も活用して確実な実施を行う。	1 学校評価の教職員の働き方に係る項目について、前年度(AB評価86%)を上回る。 2 具体的方策1~4を期限内に実施することで、教職員の資質向上や組織力向上を実現する。				